

感染症発生動向調査

今月のトピックス

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生が数年来で最多、立ち上がりも早い
インフルエンザは、増加傾向で、磯子区、金沢区等で流行期に入る
感染性胃腸炎は、昨年未大きく流行したが、例年並みに落ち着く

【患者定点からの情報】

市内の患者定点は、小児科定点：84か所、内科定点：55か所、眼科定点：15か所、性感染症定点：26か所、基幹(病院)定点：3か所の計183か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の13感染症とを報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計139定点から報告されます。

平成18年12月18日から平成19年1月21日まで(平成18年第51週から平成19年第3週まで。ただし、性感染症については平成18年12月分)の横浜市感染症発生動向評価を、平成19年1月26日に行いましたのでお知らせします。

<インフルエンザ>

第1週に8人、第2週に18人の報告でしたが、第3週に入り84人と増えてきました。全体では定点あたり0.71とまだ流行期とは言えませんが、鶴見、南、磯子、金沢、瀬谷では、流行期の目安となる1.0以上となっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は0.71と横浜と同様で、川崎市は0.26、東京都は0.60と横浜市より少ない値でしたが、全国では流行期に入ったようです。今後の動向には注意が必要と思われます。

平成18～19年 週 月日対照表

第51週	12月18～24日
第52週	12月25～31日
第1週	平成19年1月1～7日
第2週	1月 8～14日
第3週	1月15～21日

横浜市内の病原体定点からの第3週までのウイルス分離・検出状況は、Aソ連型1、A香港型5、B型4となっています。全国の地方衛生研究所からのウイルス分離報告は、1月23日現在で、Aソ連型14、A香港型30、B型33でした。

また、市内での集団かぜによる学級閉鎖は、まだありません。東京都では、今シーズン初めて、小学校でインフルエンザ様疾患による学級閉鎖があったようです。

<RSウイルス感染症>

12月は、第49週に11人、第50週に28人、第51週に37人、第52週に34人とかなり多くの報告がありましたが、1月に入ってから、第1週が4人、第2週が18人、第3週が6人と減少しています。第3週については、川崎市は3人と少ない報告でしたが、神奈川県(横浜、川崎を除く)は40人、全国でも多く報告されているようですので、まだしばらく注意が必要です。

病原体定点から採取された検体からは、衛生研究所で、12月に22例、1月に10例、PCRで検出されています。

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

第3週に急に増加してきて、定点あたり1.81と、過去5年と比べて一番高い値になりました。神奈川県(横浜、川崎を除く)は1.81、川崎市は2.79と、どちらも12月同様、横浜市より高い値でした。昨年も、1月から増え始め、2、3月と、数年来で最多の発生となりましたが、今年は、さらに立ち上がり早いようなので、注意が必要です。都筑区での発生が目立っていて、1区だけ警報開始基準の4を超えています。

< 感染性胃腸炎 >

昨年末は、大きく流行しましたが、1月に入ってから、ほぼ例年並みで、第3週は定点あたり6.83と落ち着いています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は7.40、川崎市は7.36で、どちらも横浜市より少し高くなっています。

< 伝染性紅斑 >

11~12月にかけて、少し高い値が続いていました。第3週は定点あたり0.60と、ここ数年の中では高めの値でした。全国では、第40週以降年末まで増加が続いていました。

< マイコプラズマ肺炎 >

3か所の基幹定点医療機関からの報告に基づいているため、総数で比較しました。昨年はかなり報告が多く、年間で92人と、2005年の16人の5倍以上でした。1月に入ってから、第2週に1人、第3週に3人と報告があり、全国での報告も例年より多い状態が続いているようなので、引き続き今後の動向に注意が必要と思われる。

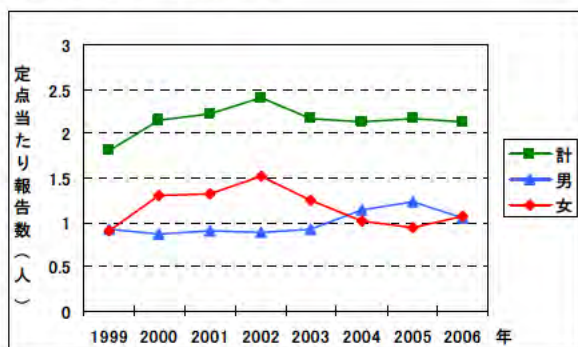
< 性感染症 >

性感染症は、診療科でみると産婦人科系(産婦)の11定点、および泌尿器科・皮膚科系(泌・皮)の15定点からの報告に基づいて集計されています。

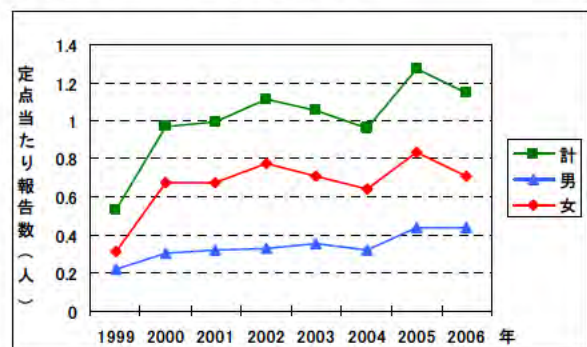
12月は、性器クラミジア感染症は定点あたり2.0と、11月より増加し、昨年に比べても高い値でした。性器ヘルペス感染症と淋菌感染症は11月より減少し、昨年よりかなり低い値でした。尖圭コンジローマは、11月よりわずかに増加しましたが、昨年よりは低い値です。

以下に、1999年~2006年までの4つの疾患の推移をグラフで示しました。

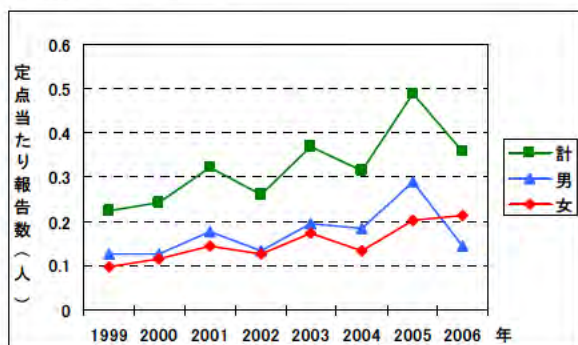
性器クラミジア感染症



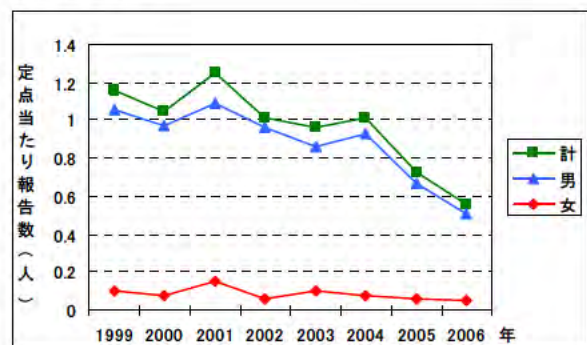
性器ヘルペスウイルス感染症



尖圭コンジローマ



淋菌感染症



【病原体定点からの情報】

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:5か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所、の計17か所を設定しています。検体採取は、小児科定点8か所を2グループに分け、4か所ごと毎週実施し、インフルエンザ定点は特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。眼科と基幹定点は、対象疾患の患者から検体採取ができた時に随時実施しています。

衛生研究所から(検査結果の詳細は、次ページ以降に掲載されています。)

< ウイルス検査 >

2007年1月に病原体定点から搬入された検体は49件(小児科定点から鼻咽頭ぬぐい液37検体、内科定点から鼻咽頭ぬぐい液11検体、基幹定点から髄液1検体)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎25名、発熱6名、気管支炎2名、関節痛、発疹、下痢、頭痛各1名、内科定点は関節痛5名、発熱3名、気道炎、倦怠感、頭痛各1名、基幹定点は髄膜炎1名でした。

2月8日現在のウイルス分離状況は、小児科定点の気道炎患者2名、発熱患者3名、内科定点の関節痛患者1名からインフルエンザウイルスAH1型、小児科定点の気道炎患者2名、内科定点の関節痛、気道炎患者各1名からインフルエンザウイルスAH3型、内科定点の発熱患者1名からインフルエンザウイルスB型、小児科定点の気道炎患者1名からアデノウイルス3型、小児科定点の発疹患者1名からはコクサッキーウイルスA16型が分離されています。

これ以外にPCR検査では、小児科定点の気道炎患者1名からインフルエンザウイルスAH3型、小児科定点の気道炎患者2名からインフルエンザウイルスB型、小児科定点の気道炎患者7名、発熱患者2名、気管支炎、関節痛、下痢患者各1名、内科定点の関節痛患者2名、発熱、気道炎、倦怠感の患者各1名からRSウイルスの遺伝子が検出されています。また、コクサッキーウイルスA16型が分離された発疹患者からインフルエンザウイルスB型の遺伝子、インフルエンザウイルスAH1型が分離された関節痛患者1名からRSウイルスの遺伝子、インフルエンザウイルスAH3型が分離された気道炎患者1名からRSウイルスの遺伝子も検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

< 細菌検査 >

1月の感染性胃腸炎関係の受付は10菌株で腸管病原性大腸菌が1株検出されました。また、溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体の受付は1件で、A群溶血性レンサ球菌が検出されました。